



新春の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。本年も月ごとの最新トピックスをお届けします。

## 国内動向

### ① オルト-トルイジンに係る健康診断の実施要請の通知(厚生労働省)

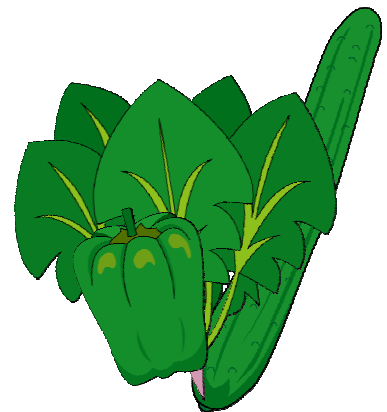
福井県の複数の作業者がオルト-トルイジンによる膀胱がんを発症する事案が発生したことを踏まえ、平成29年1月1日よりオルト-トルイジンが特定化学物質となり、事業者がオルト-トルイジンに係る特殊健康診断の実施等が義務付けられることとなった。これに伴い、12月5日、厚生労働省は一般社団法人日本化学工業協会及び化成品工業協会の長あてに、オルト-トルイジンに係る健康診断の実施を要請した。

<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T161207K0011.pdf>

### ② 「平成 27 年度国産野菜中の鉛の実態調査」の結果を公表(農林水産省)

農林水産省は12月19日、平成27年度国産野菜中の鉛の実態調査の結果について公表した。農林水産省は引き続き、国産農産物中の鉛の実態調査を実施する予定である。

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/161219.html>



### ③ 2016 年度許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)

許容濃度等の勧告(2016年度)が産業衛生学雑誌に掲載された。

<http://www.sanei.or.jp/?mode=view&cid=309>

## 海外動向

### ① 改正TSCAによりヒト健康及び環境のリスクを評価する最初の10種類の化学物質を公表(米国EPA)

米国EPAは、改正有害物質規制法(改正TSCA)に準拠するヒト健康及び環境の潜在リスクを評価する最初の10種類の化学物質を公表した。対象物質は次のとおり。

1,4-Dioxane、1-Bromopropane、Asbestos、Carbon Tetrachloride、Cyclic Aliphatic Bromide Cluster、Methylene Chloride、N-methylpyrrolidone、Pigment Violet 29、Tetrachloroethylene (perchloroethylene)、Trichloroethylene

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-names-first-chemicals-review-under-new-tsca-legislation>

### ② 「内分泌かく乱作用に関するAdverse Outcome Pathways(AOP)の評価と適用」のガイダンス(ECETOC)

ECETOCは、内分泌かく乱作用に関するAdverse Outcome Pathways (AOP)の評価と適用に関するガイダンス(Technical Report No.128)が公表された。要約版は次のサイトで確認できる。

<http://www.ecetoc.org/publication/technical-report-no-128-guidance-assessment-application-adverse-outcome-pathways-aops-relevant-endocrine-system/>

### ③ ハイドロフルオロカーボンを大幅に削減する規制案を公表

(カナダ環境・気候変動省)

カナダ環境・気候変動省は、11月28日、ハイドロフルオロカーボン(HFCs)を大幅に削減する規制案を公表した。今回の法案では、2036年までにカナダ国内のHFC年間消費量を85%削減できるとしている。

[http://news.gc.ca/web/article-en.do?nid=1161289&tp=1&\\_ga=1.232775133.393408798.1467775665](http://news.gc.ca/web/article-en.do?nid=1161289&tp=1&_ga=1.232775133.393408798.1467775665)

[http://news.gc.ca/web/article-en.do?nid=1138389&\\_ga=1.75238683.844390534.1449588394](http://news.gc.ca/web/article-en.do?nid=1138389&_ga=1.75238683.844390534.1449588394)



## 特集：皮膚感作性評価の最新動向⑤(*In silico* 皮膚感作性予測)

化学物質の感作性の有無を調べる方法は、これまで動物試験が一般的でしたが、近年では動物愛護の観点からh-CLATなどの動物を用いない*in vitro*試験法の他に、コンピュータ(*in silico*)による毒性予測法も実用化され使用されています。

*In silico*による毒性予測では、毒性発現に寄与する化学物質の特徴(構造、物性など)を用いて、対象物質の毒性発現を予測しますが、その手法は知識ベースと統計ベースの手法に分けることができます。知識ベースの手法は化学物質の有害性情報をもとに専門家が毒性を引き起こす特徴的な部分構造を集めてルール化することにより、定性的に予測します。一方、統計ベースの手法は、毒性発現に寄与する部分構造などを用いて、統計学的手法により定量的に予測します。皮膚感作性の発現には化学物質の構造が関与することが知られているため、*in silico*による感作性予測は活発に研究が進められている分野の一つです。

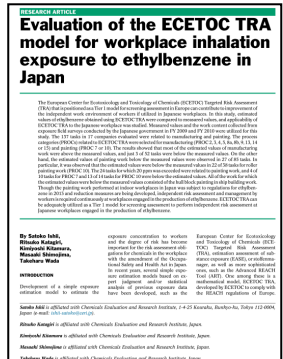
本機構では、知識ベースの予測システム(Derek Nexus)による皮膚感作性予測の受託解析を行っています。また、OECDテストガイドラインに記載されている他の皮膚感作性キーイベントに対応する代替法試験との組み合わせ(IATA、Integrated Approach on Testing and Assessment)による皮膚感作性の評価も行っています。自社製品の皮膚感作性評価を検討される場合には、豊富な知識と経験を有する本機構に是非ご相談ください。



## お知らせ

### ○論文掲載

海外の学術雑誌「Journal of Chemical Health and Safety」に石井職員らの論文「Evaluation of the ECETOC TRA model for workplace inhalation exposure to ethylbenzene in Japan」が掲載されました。エチルベンゼンを対象とし、日本における個人ばく露濃度の実測値と推定値との比較を行い、ECETOC TRAの国内の事業場への適用性について検証しました。 <http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1871553216300135>



### ○セミナー「欧州 CLP 規則と米国 HCS に対応した分類基準と SDS・ラベル作成」

1月27日(金)に江東区産業会館(東京都江東区)において開催されるセミナー「欧州 CLP 規則と米国 HCS に対応した分類基準と SDS・ラベル作成」で本機構の吉川職員が講師を務めます。割引制度がありますので参加ご希望の方は本機構までご連絡ください。 [http://www.johokiko.co.jp/seminar\\_medical/AA170185.php](http://www.johokiko.co.jp/seminar_medical/AA170185.php)

### ○セミナー「化学品管理のための QSAR/*in silico* セミナー」

1月30日(月)に日本化学工業協会(東京都中央区)において開催されるセミナー「化学品管理のための QSAR/*in silico* セミナー」で本機構の林職員が講師を務めます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.jcia-seminars.org/contents/item/124>

ご質問等ございましたら、以下の連絡先にお気軽にお問い合わせください。

**CERI** 一般財団法人 化学物質評価研究機構  
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル 7F  
安全性評価技術研究所 研究第二部  
Tel: 03-5804-6136 (担当者: 石井(聡)、菊野、林)  
URL: <http://www.cerij.or.jp> E-mail: [cac-reach@cerij.jp](mailto:cac-reach@cerij.jp)